たんぽぽだより　検索

暮らし・福祉・教育優先の市政をめざして
みんなが住んでよかったと思える川西市に・・・

たんぽぽだより

日本共産党川西市議会議員 黒田みち

市会議員団控え室 TEL740-1111(内線4020)
直通FAX759-1811
黒田みち事務所 TEL 795-4760
たんぽぽだよりブログ
http://kurodamich.exblog.jp

８月１５日（月）、「孫が居る。原発はとても心配」「共産党を支持していなくても署名できますか」「私達の生活も見直さないとね」たくさんの声を聴かせていただいた３時間。ご協力ありがとうございました。

関電　美浜原発を視察

「大丈夫」「東電と違う」の連発

新たな「安全神話」に危うさ

私（黒田）は８月３日、日本共産党阪神北地区の議員団と福井県にある関西電力美浜原子力発電所を視察。

敦賀市にある福井原子力センター「あっとほうむ」（福井県の財団）で原発の仕組みや模型などを見学し説明を受けました。同センターは「原子力平和利用に関する知識の普及啓発を積極的に行う」ことを目的とした施設。「断層の多い場所での立地をどう考えるか」の質問に「当時は、地震に関する知見や正確な情報はもっていなかった」「地震を理由に浜岡原発を止めたので、地震の原発への影響や安全性が明らかにされなければならない」と慎重な回答。

次に、県内放射線量の観測データーを常時掲示し、放射能を監視している「原子力環境監視センター」を視察。「大きな災害時、このシステムは機能するのか」の質問に「福島では、システムがダメになった。これから対策を考える」とのことでした。

その後、「美浜原発ＰＲセンター」で、映像による「原発の仕組み」の詳細な説明。「東京電力とは違う炉なので大丈夫」「防潮堤を高くしたので大丈夫」「電源確保のシステムがあるので大丈夫」「放射性廃棄物（死の灰）は、当初の予定以上の量をプールに入れていますが、冷やしているので大丈夫」の連続でした。

発電所現場の中には入ることができず、とても美しい海の向こうの巨大な建設物を写真に収めました。

再生可能な自然エネルギーへの転換を求めて

議員団では、川西市長に対して「関西電力と国に原発からの撤退と自然エネルギーへの転換を具体的に求めるよう申し入れを行っています。

＊ブログ「たんぽぽだより」毎日更新、詳細を掲載中＊

福島の願い・祈り

７月２４日から３日間、福島市へ。事務所についた途端、近所の方が線量計を借りに来て使い方を聞いて帰られる。農家の方から「生で食べる桃は良いが、ジュースの桃は基準で（出荷）だめらしい。」との会話が飛び込んでくる。部屋の中は０.２～０.７ミリシーベルトだが、外の雨どいの所は、３～７ミリシーベルトに線量計の値が跳ね上がる。日常の生活に放射能汚染があるということは、こういう事なんだ・・・と実感。

浪江地区から避難してきた、とっても笑顔の素敵な高３女子は、「突然友達と離れ離れになってしまって寂しい。大学受験も不安だけれど、がんばる」と一生懸命話してくれる。明るく話せば話す程、目に涙がにじんでいくのを見て、胸が締めつけられる。立派な水田、桃やりんご、梨がたわわな農家の女性は、「もう、若い者は、子どもを産まんといかんから地元の野菜を食べないよ。よそから高いお金払って取り（宅配）よる。」

私が「地元の実態、願いを大切に救援・復興をしていきましょう。」と訴えると両手を胸に聴いておられる方。「普通の生活を返してほしい。」という願いや祈りがずんずん伝わってくる。「○道路より☆道路の方が、放射能の値が低いらしいから、通勤には☆道路を使う方が良いよ。」そんな会話が日常なのだ。

走り去る私達の車をじっと見送ってくださる仮設住宅の方。「普通に生活がしたい」という当たり前を取り戻していかなければならない。国の責任をしっかり果たしてほしいと切に願う。

地域の声を無視―５学区に統合

兵庫県高等学校通学区地域検討委員会は６月３０日、県内に１６ある現在の学区を５学区に減らし、川西市では８市１町２９校を１学区とする「素案」を発表。１０月に最終報告・答申の予定です。

この近隣では、２～３年前に総合選抜制度から複数志願選抜制度に代わり、「学校間の格差がでている」「地域の学校の影が薄くなっている」「クラブ加入が激減」などの問題が表面化しています。この上、さらに学区が広がると、問題点はより拡大。通学時間や費用の増加で不登校や退学が増えることも予想されます。

宝塚市、伊丹市での説明会では、右記意見のほか、「学校間のいきすぎた競争や序列化が進む」「統廃合が起こる」などの問題点も指摘され、県のパブリックコメントには、２３６２通の意見が寄せられています。

また、明石市では、市長、議長、教育長が連名で「学区拡大反対」の意見書を提出。生徒や保護者への影響と問題点を示し、学区存続を訴えた「市広報紙」を配布。県下１７市町議会で「反対」「慎重審議」を求める意見書が提出されています。

私達は、県と市に申し入れを行い、８月２９日（月）に県教育委員会、３１日（水）に市教育長と懇談をする予定です。

こどもの健やかな成長と発達を保障し、学びたいこどもの教育を奪うことがないよう皆さんと共に力を合わせ取り組んでいきたいと考えています。

現行 16 学区	「素案」5 学区
淡路、神戸第一・芦屋 神戸第二、神戸第三	神戸・芦屋・淡路 （19 校）
尼崎、西宮、伊丹 宝塚、丹有	阪神・丹波 （29 校）
明石、加印、北播	播磨東（20 校）
姫路・福崎、西播	播磨西（20 校）
北但、南但	但馬（7 校）

公立高校伊丹学区
えぇ～信じられない
尼崎・西宮・三田・篠山
丹波と共に２９校１学区に

ご意見・ご要望をおきかせください

崩壊熱を出し続ける使用済み核燃料

しんぶん赤旗

シリーズ 原発事故 異質の危険

たまる一方 使用済み核燃料

「トイレなきマンション」―。原子力発電所の致命的欠陥を指摘する言葉です。危険な使用済み核燃料を安全に処理する技術がいまだ確立されていないからです。地震、津波の危険のなか、列島にたまる一方の使用済み核燃料。いまどれだけあるのか―。

編集部は電力各社の公表資料をもとに各原発に貯蔵されている〝核のゴミ〟、使用済み核燃料を調査しました。

使用済み核燃料は平均70～72本の核燃料棒を一つの燃料集合体に束ね、冷却用プールなどに保管されています。集合体数は全国で約5万9千体、1万3530トンも。アメリカ、カナダについで世界第3位の多さです（OECD資料）。その中には〝死の灰〟も含まれ、100万キロワット級の発電所なら年間で広島型原爆約千発分も。政府は青森県・六ケ所村の再処理工場で処理する方針ですが、事故続きで稼働せず、原発での貯蔵容量限界がせまっています。これからみても原発からの撤退こそ問題解決の道です。

核のゴミ

「原発を運転すれば使用済み核燃料が必ず出る。それをどう処理し、どこに置くのかという問題は解決されていない」。日本原子力研究所（現・日本原子力研究開発機構）の元研究員、市川富士夫さん（放射化学）は指摘します。核廃棄物の危険性は幾世代にもわたって、人類につきまとうことになります。

再処理工場はトラブル続出

原発の運転中、核燃料の核分裂反応によって、放射性のセシウムやストロンチウムといった核分裂生成物（死の灰）が大量に生成します。通常、使用済み核燃料には、新しい核燃料の1億倍の放射能をもつ死の灰が閉じ込められています。福島第1原発事故では、使用中の核燃料に含まれる死の灰の一部が環境に放出され、深刻な汚染が広がっています。

国内の原発敷地内に貯蔵されている使用済み核燃料の総量は1万2840トン（ウラン換算量、2009年9月末現在）。敷地内の施設は1万9420トンで〝満杯〟となるため、東京電力などは3000トン貯蔵可能な中間貯蔵施設を青森県に建設中です。

使用済み核燃料は再処理し、取り出したウランとプルトニウムを再び核燃料として利用することになっています。しかし、試運転中の青森県六ケ所村の再処理工場ではトラブルが続出。完工時期を計18回延期するなど、本格稼働の見通しはありません。

試運転は、再処理で発生する高レベル放射性廃液を、ガラスと混ぜて固化する過程で難航。これを解決しても、できあがった「ガラス固化体」（高さ134センチメートル、直径43センチメートル、重さ約500キログラム）は、取り扱いが困難です。製造直後のガラス固化体の表面の放射線量は毎時約1500シーベルト。わずか20秒弱浴びただけで致死量に達する線量です。発熱量は2300ワットで、最終処分の前に、発熱量が小さくなるまで30～50年間、貯蔵する必要があります。

これを地下300メートルより深い地中に埋める「地層処分」が計画されています。ガラス固化体1本の放射能は、元になったウラン鉱石（約600トン分）がもつ放射能と同レベルになるのに10万年近く、同じ重量（約500キログラム分）のウラン鉱石と同レベルになるのに数千万年もかかります。

ガラス固化体は、すでに1702本が国内に保管されており、今ある使用済み核燃料をすべて再処理すると約2万4100本になります。（昨年末現在）

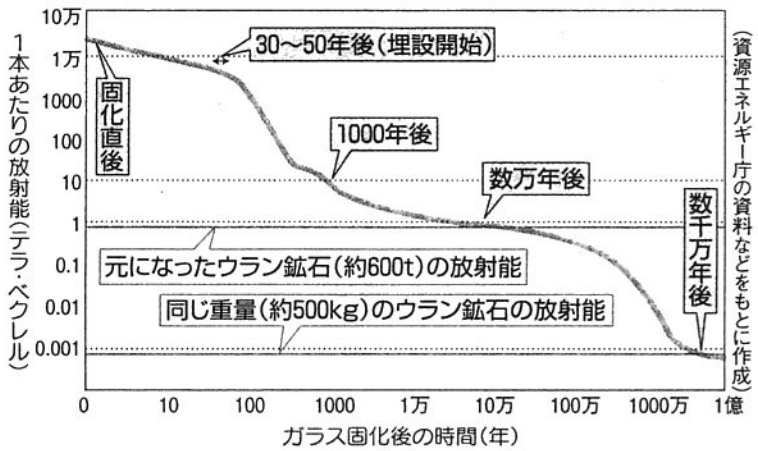
地層処分地のメドもたたず

地層処分の候補地のメドもありません。いくつかの自治体で応募の動きが表面化しましたが、いずれも住民の反対でストップしました。地震・火山大国の日本で、長期間、安全な状態を保つ場所を見つけるのは困難です。

海外でも、高レベル放射性廃棄物の最終処分を始めた国はありません。フィンランドなどは使用済み核燃料をそのまま最終処分する方針で、処分地は決まっています。しかし多くの国では処分地も決まっていません。米国では、オバマ政権が、ネバダ州ユッカマウンテン処分場建設計画を白紙撤回するなど、混迷を深めています。

放射能 半永久的に

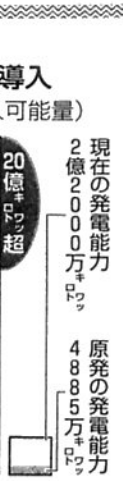
ガラス固化体の放射能の経時変化



（資源エネルギー庁の資料などをもとに作成）

原発40倍の潜在力

再生可能エネルギーの導入ポテンシャル（潜在的導入可能量）



風力発電	19億キロワット
太陽光発電（非住宅系のみ）	1億5000万キロワット
中小水力発電（設備容量3万キロワット未満）	1400万キロワット
地熱発電	1400万キロワット
合計	20億キロワット超

環境省「2010年度再生可能エネルギー導入ポテンシャル調査」などから作成